

デジタル技術の活用及びDX推進の取組状況

A. 経営の方向性及びデジタル技術等の活用の方向性の決定

a. デジタル技術が社会や自社の競争環境にどのような影響を及ぼすかについて認識、その内容

当社が対応する睡眠時無呼吸症候群(SAS)の検査数・レンタル治療機器数は過去3年間で4倍に増加いたしました。その間コロナ禍の影響もあって社会はますますデジタル化が進み、会社・個人を問わず必要な情報を人との対面なしに得られる仕組みが日常的に確立されました。医療機関では電子カルテ等 Web 上のデータ双方向通信が広まり、患者様は SNS・ネット通販等活用により最適なタイミングで必要情報を得て商取引を日常的に行っています。当社はこのようなデジタル技術を最大活用して、医療機関・患者様に対して、より迅速・正確・利便性の高いサービスをご提供して、広く日本の医療環境の改善・国民の健康生活に貢献したいと考えています。

b. 上記 a. を踏まえた経営ビジョンやビジネスモデル

当社のミッションは以下の通りです。

「皆様に質の良い睡眠」をお届けする事で

- 1 患者様とご家族の「日々の生活」を幸せにします
- 2 医療機関の皆様に利便性が高く、効率の良い「オールインワン」のサービスを提供します
- 3 患者様と日本の医療費削減に貢献します

上記 a.の環境を踏まえ、当社では DX(デジタルトランスフォーメーション)を活用して、より多くの患者様に検査・治療の機会を提供致します。それに伴い、医療機関様・患者様等を一括データ連携できるプラットフォームを構築して、関係当事者間の利便性や効率性を飛躍的に高めます。結果として、医療機関様との連携により全国 900 万人と言われる睡眠時無呼吸症候群の潜在患者様への充実した医療環境をご提供致します。

新しい経営ビジョンは以下の通りです。

当社は DX(デジタルトランスフォーメーション)活用により、全国の睡眠時無呼吸症候群(SAS)の潜在患者様への検査・治療の普及・実施により、日本国民の睡眠を改善し、健康増進・医療費削減に貢献いたします。

B. 上記A. の経営ビジョンやビジネスモデルを実現するための戦略

経営ビジョン実現のため、IT 活用による潜在患者への教育・啓蒙を実施すると共に、DX を活用してより多くの医療機関様へ医療提供依頼のアプローチを実施します。また、関係当事者間の一括データ連結プラットフォームを構築致します。

C. 上記B. の戦略を推進するための体制・組織

当社は以下の組織表の通り、本戦略を推進するため代表取締役をプロジェクト責任者とし、CIO (最高情報責任者)、CISO (最高セキュリティ責任者) をプロジェクトリーダーに配置、旧 IT システム責任者、営業管理部責任者、臨床検査部責任者、業務部責任者、財務部責任者を主要メンバーとしたプロジェクトチームを発足させました。

プロジェクト体制図

